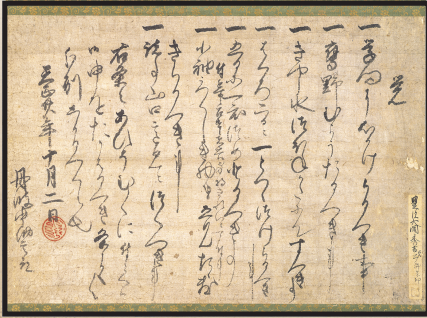


豊臣秀吉朱印状

天正20年10月2日付 丹波中納言宛

秀吉が11歳の養子秀俊（のちの小早川秀秋）に与えた訓戒状。「学問に精を出せ」「お齒黒は二日に一度ずつ」「五日に一度爪を切れ」など日常の心がけを細かく指示し、「これらを守らないと絶交する」とおどしている。

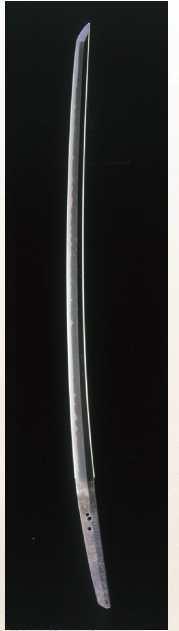
北政所おねの兄の子である秀俊は、生まれてまもなく秀吉夫婦に引き取られ、秀吉の後継者候補として育てられた。独特のユーモアを交えて秀俊を教育していたことが本状からうかがえる。



刀 銘 藤嶋（伝 長束正家所用）

長束正家は丹羽家の家臣だったが、理財の能力を秀吉に買われて直臣となり、主に豊臣家直轄領の算用（決算）を担った。政権の中枢に位置し、秀吉最晩年からは五奉行の一人に名を連ねたが、関ヶ原合戦で西軍に協力したため居城の近江水口を攻められて自害した。

本品は正家所用と伝わる刀で、熊本藩細川家に仕えた正家の子孫の家に伝来したもの。南北朝期から江戸末期まで続く刀工・藤島友重の系統に属し、室町後期の制作とみられる。



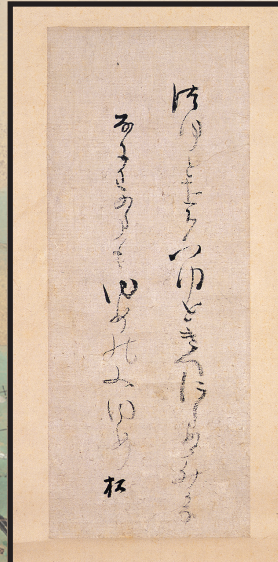
重要文化財

豊臣秀吉自筆辞世和歌詠草

秀吉は慶長3（1598）年8月18日、幼い嫡子秀頼を残して世を去った。本品は「つゆとをち つゆときへにしわかみかな なにわの事も ゆめの又ゆめ」としたためた有名な秀吉自筆の辞世和歌で、北政所おねの実兄の子孫にあたる備中足守藩主木下家に伝来した。

「なにわの事」は「何もかも」と「難波の事も」の掛詞。一代で天下人にのし上がった秀吉は、命尽きようとするわが身のはかなさを露にたとえ、何もかもが夢のようだったと詠じた。

本品は令和2年度、国の重要文化財に指定され、今回が指定後初公開となる。



賤ヶ岳合戦図屏風(右隻)：秀吉が織田家中のライバル柴田勝家を破った賤ヶ岳合戦の様子を描く。

学芸員の
おすすめ
コレクション

一般財団法人
大阪市文化財協会

森小路遺跡出土銅剣形石剣

銅剣をまねた弥生時代中期の石製の剣で、旭区の森小路遺跡から出土しました。頁岩（けつがん）製で、剣先は折れていますが、現存長は17cmあります。中心の太い部分には、両側からの研ぎ分けによって稜線が見られます。上半の刃がつけられたところは、やや湾曲し、銅剣に見られる割込（くりこみ）という刃のくびれた箇所にあたります。根本には2箇所穴が空けられています。また、柄のつく下端には変色が見られ、何らかの接着剤を使っていた可能性があります。銅剣形石剣は祭祀用と考えられますが、もとなる銅剣を忠実にまねた珍しい一例です。

大阪市文化財協会学芸員 平田洋司



森小路遺跡出土銅剣形石剣 大阪市蔵

※今回紹介した資料は、当協会難波宮調査事務所資料展示室にて12月25日まで公開しています。
(要事前連絡 TEL 06-6943-6833)

住所 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-6-41 TEL 06-6943-6833 FAX 06-6920-2272
ホームページ <http://www.occpa.or.jp/> アクセス Osaka Metro「谷町四丁目」10号出口

大阪市立の博物館・美術館・動物園 **Osaka Museums** <https://ocm.osaka>

大阪歴史博物館 大阪城天守閣 大阪市立自然史博物館 大阪市立美術館 大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市文化財協会
大阪市立科学館 天王寺動物園 大阪中之島美術館準備室 大阪くらしの今昔館